

715高温・低温環境を起因物とする死傷災害100事例まで（2018年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2018	1	12 ～ 13	工場の返却側の冷凍庫前にて、4人前ムース出荷のピッキング作業のため、1時間冷凍庫内で作業をしていた。軍手は私物を使用していたが、布のみの軍手とあまり変わらないものだった。途中で感覚がなくなり1時間後に軍手を外してみると、白っぽく腫れていた。	63	11	10109	100 ～ 299 人
2	2018	1	7 ～ 8	指定の駐車場に自家用車を駐車し、勤務先へ向かうべく歩行中に、自転車庫付近で、前日の雪が解けた自転車庫の屋根の庇からの滴りにより凍結した歩道で、滑って両足が空中に浮くような形で転倒した。その際、体をかばうように右手を歩道についたために、右手を捻挫した。	57	2	11301	50～ 99人
3	2018	1	13 ～ 14	本社給油施設にミキサー車を駐車、給油作業のために降車したところ、積雪で地面状態が確認しにくい状況となっており、右足が排水溝にはまり、右足首をひねり、右足関節捻挫となった。	70	2	40301	30～ 49人
4	2018	3	20 ～ 21	工場包装部門にて、冷凍されたコロツケを手で拾う作業をしていた。作業中は特に痛みなどなかったが、後日両手親指に痛みと水膨れができた。その後、凍傷と診断された。	57	11	10109	100 ～ 299 人
5	2018	3	8 ～	2階加熱調理場で腰の高さ程の調理釜で筍のボイル調理を行った。その後、その煮汁を廃棄する作業中、調理釜の右側の回転レバーを回し、釜を前面に傾け煮汁を流す工程で、急いで回転を速めたため、釜内の煮汁が勢いよく前面に流れ出した。防水性の足首近	60	11	10109	100 ～ 299 人

13	2018	6	9 ～ 10	被災者は、作業中に突然前方の機械側へ倒れたが、立ち上がって操作盤へ移動したあと、再び後方の壁へ倒れた。再度立ち上がったが、機械の上に仰向けに倒れ込んだため、頭部を数回強打した。	27	11	11502	30～ 49人
14	2018	6	18 ～ 19	家電製品を大型トラックへ積み込んでいたとき、熱中症になった。	48	11	40301	30～ 49人
15	2018	6	16 ～ 17	営業所資材置き場で資材料の整理中、具合が悪くなった。	57	11	11301	300 ～ 499 人
16	2018	6	15 ～ 16	塗装ライン工程で、製品に高圧エアーを用い、内部に残った洗浄水を吹き飛ばす作業中、作業場所が乾燥炉の近くにあり高温である上、当日の気温も高かったため熱中症となった。	61	90	11209	30～ 49人
17	2018	6	15 ～ 16	解体工事現場で、敷き鉄板を運搬して設置したあと、休憩時に体調が悪くなった。	60	11	40309	10～ 29人
18	2018	6	17 ～ 18	トラック荷台で積み込みが終わり、シート掛けをしているときに気を失い、転落して頭部を打ち、裂傷を負った。	56	11	40301	10～ 29人
19	2018	6	9 ～ 10	工場で製品の選別作業中、被災者が体調不良となり、2人掛かりで肩を抱えて外の涼しい場所へ移動させた。水分を補給して体を冷やしたが、頭痛・吐き気・寒気があり、熱中症と判断した。	23	11	10102	100 ～ 299 人
20	2018	6	14 ～ 15	始業時に安全衛生教育を受けたあと職場に配属され、配属初日のため一番負荷の軽いカシメ作業に従事していた。午後からは負荷の重い梱包作業に従事していたところ、座り込んでしまったので熱中症と判断した。	47	11	170101	100 ～ 299 人

21	2018	7	21 ～ 22	メロン収穫をしていたところ、体調がすぐれないが、そのまま作業を続け、終了後、意識を失った。	30	11	60101	100 ～ 299 人
22	2018	7	15 ～ 16	片側交互通行業務中、熱中症にて筋肉が張り、足のふくらはぎが突っ張った状態になり、体中が重だるい感じと吐き気をおこした。	41	11	170201	50～ 99人
23	2018	7	20 ～ 21	船上での横断測量で休憩・補水他熱中症対策しながら作業していたが、足がつり、歩行困難となった。	56	11	170209	10～ 29人
24	2018	7	12 ～ 13	AM便積み完了時、足がつり、卸作業時に、具合が悪化し嘔吐した。	18	11	40301	30～ 49人
25	2018	7	10 ～ 11	ゴルフ場コースにおいて、練習グリーンの周りの草刈中に、気分が悪くなった。	59	11	140301	10～ 29人
26	2018	7	11 ～ 12	工場屋内作業中、工場内の気温が40度弱ある中で、資源物分別作業を行っていたら、熱中症とみられる、眩暈、吐き気、立っていられなくなり一人で歩けなくなった。	59	11	150103	30～ 49人
27	2018	7	13 ～ 14	倉庫内で梱包作業中に、立ちくらみと頭痛、手のしびれの症状があらわれた。	35	11	80409	100 ～ 299 人
28	2018	7	16 ～ 17	コンクリート打設終了後、体調が悪くなり、休憩所で休んでいたが、脱水症状があり、手足が突っ張った状態であった。	44	11	30203	—
			13	手動ライン通路上で、銅素材の表面処理をすべく、上体を前屈み				50～

29	2018	7	7 ~ 14	にして作業を開始したところ、表面処理液が突沸し、左手内側と左顔面に液を浴びて負傷した。	32	11	11204	99人
30	2018	7	21 ~ 22	店舗内、食品バックヤードにて、ペットボトル飲料の在庫整理中、熱中症を発症した。	24	11	80209	100 ~ 299 人
31	2018	7	12 ~ 13	就業先の車両入口にて、通常の業務を行い、昼すぎよりだるさ等の体調異変を感じ、熱中症となった。	27	11	170201	1~9 人
32	2018	7	8 ~ 9	日常清掃に従事していたところ、前日からのお腹の不調が続き、吐き気、だるさが生じて、熱中症となった。	57	11	150101	100 ~ 299 人
33	2018	7	14 ~ 15	蒸気アイロンを使用し浴衣の仕上げ作業中、徐々に体がだるくなり、立ちくらみを起こし、そのまま気を失い熱中症となった。	45	11	11703	30~ 49人
34	2018	7	14 ~ 15	屋外警備勤務中、体調不良となった。	66	11	170201	30~ 49人
35	2018	7	13 ~ 14	安全誘導業務に従事していたが、台風接近で予定より早めに勤務交代をし、強風により途中で動けなくなり、意識は朦朧としており、その後、低体温症より死亡した。	71	11	170201	100 ~ 299 人
36	2018	7	11 ~ 12	敷地内でごみの分別作業をしている際、小屋の中にある冷蔵庫から飲み物を取りに出そうとしたとき、意識が朦朧とし始めた。	52	11	10909	10~ 29人
			17	連日の暑さで、作業終了後に駐車場に向かう途中、頭と首が痛く				1~9

54	2018	7	10 ～ 11	海上コンテナの荷降ろし作業中、眩暈・動悸がし、手足にしびれが出て、体温が上がり立っていられなくなった。	51	11	40301	—
55	2018	7	9 ～ 10	スペシャルラインにてサービング後、洗い場を手伝っていたが、他の従業員が被災者の異変に気づき休憩を促した。	46	11	170209	1000人以上
56	2018	8	6 ～ 7	長時間雑貨を降ろしていたら、足がつり、熱中症になった。	57	11	40301	50～99人
57	2018	8	17 ～ 18	現場屋根上にて屋根葺き作業を行い、休憩時に手足がつる自覚症状はあり、帰宅途中に全身各所つる症状があり、会社に着いた際には動きが困難な状態となった。	44	11	30201	1～9人
58	2018	8	13 ～ 14	集荷及び配達を行う作業をしているとき、体調がすぐれなく、熱中症と診断された。	58	11	40301	500～999人
59	2018	8	10 ～ 11	休憩時間で詰め所に戻ろうとした際、眩暈を訴えたため、水分補給や体を冷やすなど介抱を行ったが、顔色も悪く脱水症状がみられ、熱中症となった。	65	11	150101	100～299人
60	2018	8	16 ～ 17	厨房作業台の前でコースの準備の仕込みをしているときに、体調が悪くなった。	21	11	140201	—
61	2018	8	12 ～ 13	工事車両の誘導業務中、体調が悪化し、気分が悪くなり熱中症と診断された。	68	11	170201	50～99人
			11	ガス管取り替え工事現場において、堀削作業中、体調不良を訴				10～

62	2018	8	8 ～ 12	え、軽度の熱中症と診断された。	37	11	30199	29人
63	2018	8	14 ～ 15	所有の借家テラス改修工事現場において、屋根板のポリカを打っていたところ、ポリカの照り返しと太陽の熱で気分が悪くなり嘔吐し、熱中症と診断された。	69	11	30202	1～9人
64	2018	8	15 ～ 16	勤務中、体調に異変を感じ、その後発熱があり、熱中症と診断された。	39	11	170101	50～99人
65	2018	8	18 ～ 19	修理品の入荷受付場にて、入荷品の開梱作業中、入荷状況でシャッターの開閉が多いときがあり、熱中症になった。	28	11	11702	30～49人
66	2018	8	12 ～ 13	仮設ホイスト取り付け作業に従事、天井付近の作業であったため、気温は48℃の中、熱中症に気を付けながら作業をしていたが、歩行が困難になり、吐き気を催した。	44	11	30309	10～29人
67	2018	8	13 ～ 14	朝から作業をし、昼食を取るまでは異常は見られなかったが、その後意識がもうろうとなった。	23	11	30309	10～29人
68	2018	9	16 ～ 17	キッチン内で作業中、大きい鍋でお湯を沸かしていたとき、鍋の蓋を開けた際に湯気で右腕を火傷した。	28	11	130201	10～29人
69	2018	9	14 ～ 15	出勤時から体調不良のため休憩室で静養後、倉庫を通過して売り場に出ようとした際、気を失ってしまい仰向けに倒れて、右後頭部を床に打ち負傷した。	60	90	80209	1～9人
70	2018	9	19 ～ 20	熱燗のオーダーが入り、2合徳利を湯煎するためポットのお湯を注ぐ際、徳利の口にお湯がうまく注げず漏れて、左手指3本にお湯(90℃)がかかった。	58	11	140201	1～9人
			9	事業所で、昼食のキャベツの高菜炒めを大鍋にて蒸し焼き中、様				10～

71	2018	9	～ 10	子を見ようと蓋を少し開けたところ、蒸気が多く出て左手を火傷した。	63	11	80409	29人
72	2018	11	～ 22	冷凍倉庫内で、フォークリフトを使って冷凍食品の入出庫作業をしていた。その際に手先が冷えて、両手指に痺れが生じて凍瘡を負った。	42	11	40301	100 ～ 299 人
73	2018	12	～ 19	ドライバーが荷物を降ろして、空のカゴ車（4～5kg）を引っ張っていたとき、左足に強い痛みを感じ、筋を損傷した。	64	19	40301	30～ 49人

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2018年）](#)に戻る。